



題字は松井岳洋筆

No. 426
平成26年12月

発行
(公社)日本詩吟学院 認可
碩心会
発行者 内山岳青
編集者 伊藤岳光
神奈川県藤沢市辻堂東海岸1-7-28
Tel/Fax. 0466-33-2228
URL <http://sekishin.holy.jp>

詩吟と向かい合って

副会長(兼)経理部長 磯村岳朋



平成26年今年も、もうわずかです。詩吟と巡り合ってから40年、長いような短いような

な、初めての舞台のことは、覚えていませんが、何度失敗したことか！試行錯誤の時を過ぎ、ある時からテーマを決めて、舞台へ上がることにしました。

たとえば、二句三息を心がける、アクセント音程を確実に、とか基本的なことばかり、稽古の時も一点に重点を置き、それをクリアするように練習しました。集中することを意識すると舞台であがつてしまうこともなくなりました。練習通りできると、自信が付き、吟が楽しくなりました。いまだに吟にテーマを持たせて、吟ずる事にしています。稽古は繰り返し行うこと、必ず納得いくま

で練習をすること。私の吟との付き合い方で、稽古場でも、吟題、作者名、間において詩文に入る事、余韻を丁寧に引く事、アクセントや、イントネーションを正しく、など徹底して稽古しています。吟にリズムを持たせ、上半身の力を抜く事、大きな声を出す事等々。「腹式呼吸」など、口で説明できませんが大きな声を出すことで、お腹から声が出るのだと思います。稽古中は一人ひとりの吟を確り聞くことに重点を置いています。これからも、ズーッとズーッと、吟と仲良く付き合いたいです。練習方法は、皆それぞれですが、一つの例として書いてみました。

平成26年度功労者表彰

去る10月19日(日)三島市民文化会館で開催された第125回全国吟道大会において左記の2名の方が表彰されました。
功労者の部 小野岳祥
寿九十歳の部 野口紀岳

行事予定

- 碩心会 初吟会
日時 1月31日(土) 開会10時
場所 葉山町福祉文化会館
- 第6回全国認可団体代表吟道大会
日時 3月15日(日) 開会11時
場所 日経ホール
- 第3回尚齒会全国吟道大会
日時 3月25日(水) 開会10時
場所 日本教育会館一ツ橋ホール
神静地区吟詠大会
日時 5月17日(日) 開会10時
場所 小田原市民会館

昇伝段位認許

(平成26年10月1日付)

- 少年1名
180 吉田朋之進
- 初段1名
227 羽白昌平
- 二段(6名)
167 松浦みづき
217 佐々木康子
221 上本里子
222 三並哲司
223 結城正吾
224 岩田文男

初伝 (8名)	186 小俣信泉	198 馬場奎泉	201 中島千泉
	203 野村京泉	206 井上裕泉	214 小金井歩泉
	220 弦巻康泉	225 鈴木実泉	
三段 (6名)	194 本多菊泉	196 新井洋泉	197 山田眞泉
	199 伊藤琴泉	200 片桐泰泉	208 寺山紀泉
四段 (1名)	193 津呂知泉		
中伝 (4名)	175 泉谷鐵山	178 加藤典山	179 田嶋明山
	182 亀井水山		
五段 (2名)	160 野村耀山	209 神山功山	
六段 (3名)	152 高橋禮山	156 中山辰山	157 村上遙山
奥伝 (4名)	142 今原幸風	143 新田香風	144 畠中潤風
	146 矢嶋敏風		
七段 (5名)	202 田中容風	128 梅澤彰風	129 歌代宗風
	130 品川榮風	131 井上茗風	
八段 (2名)	118 今井重風	119 大塚洋風	

第125回 全国吟道大会

10月19日(日) 標記大会が三島市民文化会館で開催されました。開会式の朗詠合吟は内山岳青大会実行副委員長の迫力ある先導で行われました。祝舞・独吟次いで合吟が行われ、待望の競吟決選が行われました。

全国10地区での予選を勝ち抜いた10人1組18チームによる合吟です。全国大会に出場するだけあって全てによく揃っていました。その中でも顔を動かさず人、高音の止め乱れ、ブツ切り、情感不足のチームも見られました。

北海道とかち岳峯会の「楠公を詠ず」は発音が明確で揃っており、詩情があり、10人の迫力が一体となって独吟では出せない力強さがあり、今までの合吟の概念を完全に覆すものでした。各チームとも服装はほぼ完全に揃い特に女性は和服・袴・洋服の形・色彩が完全に揃って美しく、男性も背広の色が完全に揃い出入動作、吟ずる姿勢も揃っていました。

次いで青年による構成吟「日本人の心を詠う」がありました。忠義を尽くす心、自然を慈しむ心、目標に向かい邁進する心、思いやる心等の「心」について吟じました。松浦みづきさんの「母を奉じて嵐山に遊ぶ」は情感迫力ともにあり突出していました。小生今後心豊かな詩吟活動を全うしたいと念じました。

昼食後式典が行われ、78団体の会旗入場の後に木部理事長から挨拶があり、新学院会館

建設資金についてご協力をお願いする。日本詩吟学院が頑張らなければ150年の近代吟詠の歴史は消えてしまう。吟道という道をもっと大きな力に育てて次の世代に継承して岳風先生の遺言である「吟道をして永遠の命有らしむ」を実現させたい旨がありました。

次いで構成吟「東海道53次詩歌の旅」では、横浜は近代幕開けの地で詩吟隆盛の礎を築いたのは市内本牧にある「八聖殿」です。昭和8年内務大臣安達漢城が私費を投じて国民の精神修養と吟詠の道場として作られたもので「八聖殿を仰ぐ」を吟じました。

宿場町大磯は、若くして出家した西行法師が「三夕の歌・心なき」を詠み、新島襄は辞世の詩「山を看る」を詠み、源実朝は箱根を越えて「伊豆の海」を詠みました。

総本部役員による役員吟詠があり、会場は素晴らしい吟詠に酔いしれました。

最後に審査講評があり、昨年も同様の講評をしましたが、合わせるためのブツ切りはいけません。10人の競吟でも詩情表現が最も大切である。アクセントによって聞きづらい不自然な吟調が出てきている。アクセントも大切だが詩情表現と調和した吟調を勉強してほしい旨があり終了しました。

高見

平成26年秋季審査会

瀬朗支部 井上茗風

秋雨降る9月20日(土)、審査会場としては初めて逗子久木会館に於いて、秋季の審査会が行われた。

午後の部の審査を受けるため緊張した心持ちで着席。午後は奥伝の漢詩韻読に始まり十段受審の方々まで、三行詩、律詩、和歌、俳句、俳諧歌、近代詩など、それぞれ大きな課題に取り組み、その勉強の成果を發揮されていた。

私は受審する七段の課題吟の多さに圧倒され、力の無さに落ち込んだりしたが、先生方のご指導のもと受審日を迎えることが出来た。吟じ終わった時には、不出来ながらも満足感が湧いてきた。

審査修了後、内山会長より講評・注意点などをご指導いただいた。漢詩の止め、和歌の序詠と本詠の違い、俳句の軽み等々、吟ずる上で重要で常に注意されるところでもある。一層の稽古を積み重ねば到達出来ない高処であり、私の目標である。

受審を応援して下さいました教室の方達と共に楽しみなから、「吟道興義抄」の説く真の吟詠修得に向かつて進みたいと思っている。



新総伝祝賀会

悠吟支部 松岡岳杏



一柳教場に入門し、千葉岳先生とお二人の先生方を送り、様々な25年間でした。

縁あって吟の世界に入り、戦前から戦後を過ごした私にも学べなかつた違う世界を勉強させて頂きながら、諸先生、先輩方の吟に感動し力を頂き頑張ることが出来ました。

今は小野教場で先生と皆様に支えられ楽しく吟道に精進して居ります。

新総伝祝賀会

一色支部 鈴木岳祐



この度は新総伝祝賀会を催して頂き誠に有難うございます。思い出せば26年前、友人に「誘われるうちが花なのよ」と吟を勧められ入会、先生の吟をテープに入れて頂き勉強したものです。

何年経つても詩吟は難しいですが今はお陰様で楽しく「初心を忘れずに」これからも吟道に精進してまいります。今後共ご指導のほどお願い申し上げます。

レッツ詩吟活動について

普及副部長 原田岳義

10月18日(土)、久しぶりの晴天に恵まれた今回の詩吟体験教室は、カトリック茅ヶ崎教会の一室をお借りして高見湘岳先生のご指導で開催されました。普及部としては初めて行う場所なので多少不安もあつたが、高見先生始め先生の教室の方々のお力で、この詩吟体験教室への参加を呼びかけて下さり、入会希望者を含め多数の皆様に来て頂く事が出来ました。

先生の熱のこもつた素晴らしい指導が参加された皆さんに伝わり、感動的な体験教室となりました。

詩吟の良さが回を重ねる度に広がり結果が現れると信じ、新しい詩吟体験教室の活動方法も考えて行く時が来ていると思ひ、これからの普及活動に光が少し見えてきたと思ひます。普及部一丸となって活動して行きたいと思ひます。最後に高見先生ご夫妻のお力添えに感謝します。



普及の為の吟詠発表会

爽やかな秋晴れに恵まれた10月25日(土)、関東学院大学金沢八景キャンパスに於いて総本部主催、横浜市教育委員会後援、碩心会、神奈川誠吟会、横浜岳風会、横浜吟友会賛助のもと、標記発表会が開催された。

大学生の学舎である広い教室は各会より参加の吟友、一般の方々と満席となり定刻の13時、開会した。「構成吟」では『金沢八景』と題し八箇所の名所旧跡が漢詩と和歌で詠ぜられ、目前にその美しい世界が広がった。



「構成吟」『金沢八景』の出演者

「15分で覚えられる吟詠法」では、大きな声で発声し会場が一つになれた。国費留学生二名による「中国語による漢詩朗読二題」では白井岳琇総本部参事が「山中問答」を素読の後、許琦さんが中国語で詠まれると遙か悠久の彼方へ誘われる心地よさでした。いつもの吟詠大会とは違う緊張感に包まれた吟詠発表会となりました。

伊藤

「まちかど情報」紙(逗子)に
詩吟教室の風景を紹介

逗子銀座通りの河野新聞店(毎日、日経、神奈川、スポニチの取扱店)では毎月、市内のイベント情報を【河野新聞店だより】として管内の読者に配布している。11月は秋の武者行列と流鏑馬の記事と共に日本の伝統文化である吟道を研鑽する日本詩吟学院認可の碩心会を取材、稽古の模様(渚教室)を紹介してくれた。

教室では先ず碩心会の詩を全員で合吟、朗々たる発声に記者とカメラマンは感動した面持ち。内山岳青会長にインタビュした記者は「健康によい詩吟はアンチエイジングに最適。吟を通して仲間も増え楽しく行えます。日本の良さを若い人にも伝えていきたい」という内山会長の言葉と共に碩心会の全体像と近々行われる行事予定を簡潔に分かり易く記事に取りまとめてくれた。(発行部数6000) 常盤

「碩心会」湘南ビーチFMでも紹介

去る11月19日(水)、湘南ビーチFMに内山岳青会長と鈴木岳賢普及部長が出演した。番組はパーソナリティの森川いつみさんが詩吟についていろいろ質問し、二人がそれに答えるトーク形式で進められた。碩心会の歴史

や詩吟の魅力について内山会長は次の様に話した。「碩心会は昭和12年逗子で誕生した歴史ある詩吟の会です。詩吟は、腹式呼吸で大きな声を出して漢詩・和歌・俳句・近代詩等を詠うので身体に良いだけでなく、詩を覚えた、舞台上で吟ずる緊張感もあり、アンチエイジングに最適です」と。また、詩吟体験教室等の行事について鈴木普及部長が説明した。伊藤

編集後記

個人情報の掲載は不都合を生じますので、今号より掲載は取りやめました。今年局地的豪雨による相次ぐ水害、御嶽山の火山災害等で沢山の尊い人命が失われ防災の必要性が特に感じられた年でした。来る年が皆様にとり輝かしい年となりますように！

広報部

26年11月1日現在会員数	
葉山地区	72名
逗子地区	113名
合計	185名

会員のうごき

*退会	
74 坂本神岳 (真澄)	141 梅田萌山 (渚)
226 峰岸康之 (真澄)	